

勿凝学問 191

首相の3年後の消費税増税発言を野党が批判すればするほど面白くなる
将来の負担増路線という陣地を先に与党にとられた野党の運命

2008年11月1日
慶應義塾大学 商学部
教授 権丈善一

今は夜の11時過ぎ。今なお、朝にみた次の小さな記事が気になっているので、一筆。

「恒久増税を押し付け」。

2008/11/01, 日本経済新聞 朝刊, 2面

民主、社民、国民新の野党三党は三十一日、政府の追加経済対策について「一度限りの効果無きバラマキの対価として消費税の恒久増税を国民に押し付けることは認められない」などとする共同談話を発表した。記者会見した民主党の直嶋正行政調会長は「政策を発表した以上、国会の会期内に補正予算を出すべきだ」と述べ、麻生太郎首相を批判した。

民主党の理性派が今一番困っているのは、2004年のマニフェストに掲げていた3%の消費税引上げを、小沢代表になって撤回したことを、いかにして国民にごまかすかという点にある。この点については、民主党は「小泉安倍政権で9兆円の負担が増えたから」という言い逃れをする方針になっているようである。しかしながら、次の安倍氏の批判は正しい。

「勿凝学問 185 [医療経営と消費税改革——消費税に対する自民・民主の具体的方針](#)」3頁より

小沢さんは、小泉、安倍政権において9兆円負担が増えていると、こうおっしゃった。税金と社会保険料だと思う。社会保険料は、まさに給付と負担がセットになっている。給付と負担。社会保険料と税金をいただき、そして給付して、これはワンセットだ。小泉、安倍政権、小泉総理の時代と私の時代、6年間ある。この6年間、確かに9兆円、社会保険料と税の負担増えた。しかし、社会保障の給付は11兆円増えている。9兆円なくて、どうやって、11兆円の給付をするのか。そもそも社会保険料はそういう仕組みになっていることを小沢さんは理解しておられないのではないかと思う。

10月30日に、首相が、「大胆な行政改革を行い、経済状況を見た上で3年後に消費税引

き上げをお願いしたい」と発言し、将来の負担増路線という陣地を与党が先に確保した。理屈でもなく、正論でもなく、相手が白と言ったら黒と言うしか戦略をとり得ない政界（あそこは紅組・白組に別れて運動会をやっているような世界）に生きる野党は、将来の負担増路線という与党の陣地を今後も、強く攻撃し続けていくであろう。ところが、この国には、首相が言うように「消費税を含む税制抜本改革」による負担増をいずれは国民に願うしか途は残されていない。したがって、野党が、首相の発言を批判すればするほど、これら野党はこの国で消えゆく運命にある政党になっていくか、もしくは、党首に突然病気になるもらって交代させ、負担増批判は過去のものとして自ら驚くべき豹変を遂げるしか途が残されなくなっていく。首相の将来の負担増発言を野党が批判することは、いわば野党の自殺行為なのであるが、お気楽な傍観者のひとりとして言わせてもらえば、公党の自殺行為を見物させてもらうのは、これはなかなか面白くはある。野党さん達、もっともっと将来の負担増路線を批判すべし・・・である。